

# 魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 清水 直子 所属: 静岡市立清水三保第二小学校 記録日: 2021 年 2 月 10 日

キーワード: 学び直し、読み書き支援

## 【対象児の情報】

・学年 小学5年生

・障害名 広汎性発達障害 (ADHD 不注意型傾向、知的遅延軽度あり)

・障害と困難の内容

文字の読み書きが定着せず、学習全般が難しくなっている。未定着の学習を積み上げてしまっている。

## 【活動目的】

・当初のねらい

- ① 活動の見直しをもって、じっくり生活する心地よさを味わう
- ② 本児に合った学習法を見つけ、意欲的に学習できるようにする。
- ③ 自分にできることを見つけ、自己肯定感を高める。

・実施期間 5月 25 日から 2 月 10 日

・実施者及び実施者と対象児の関係 清水直子(校内支援) 池田友香(担任)

## 【活動内容と対象児の変化】

### ◆対象児の事前の状況

今年度より、知的障害支援学級に入級のため、本校に転入した児童である。通常学級の学びの中で未定着な学習を積み上げている。学校生活において、集団行動から大きく逸脱することはなかったが、担任や周りの友達の声掛けで促されて行動することが多かった。

### 学習面

・授業中、書く姿勢も聞く姿勢も崩しやすい。

・見る、切る、塗る等の一つ一つの作業に集中できる時間が短い。

・平仮名は、特殊音節を含む言葉を読めるが、時間がかかる。

STRAW-R 単語 平仮名 56.64 秒(平均 17.1) 片仮名 50.59 秒(平均 16.4)

非語 平仮名 37 秒(平均 23.8) 片仮名 36 秒(平均 24.4) いずれも 2SD 以下(2020.5.12)

・片仮名は36文字読める。ユ、ヨをコと読むなど形の似ているものを一括りにして覚えている。知っている言葉と読める文字をつなげて言葉として読む工夫をしている。

・字形が整わない。書く文字は平仮名だけになる。書くことに苦手意識をもっている。

・手先は不器用である。

・繰り上がり、繰り下がりの計算はできる。

・2、3、5の段の九九は、唱えることができる。それ以外は九九表と指を使って計算している。

・九九表を手元に置いて取り組めば、2桁×2桁のかけ算の筆算ができる。

・理科が好きと話す。

・体を動かすことは好きであり、できる。

### 言語、コミュニケーション

・困ったこと、教えてほしいことを言葉で伝えることができるようになってきた。

・思いを十分には伝えることができず、もどかしい思いをしている姿も見られる。

・教員や友達にあいさつや返事を返すことができる。教員に対し丁寧な話し方をする。

・休校中、以前の学校の友達から通信ゲームの招待を受け遊んでいた。

## 行動面

- ・一斉の指示の聞き洩らしが多く、担任や友達からの個別の声かけを受けて行動する。
- ・当番や係の仕事は一生懸命取り組もうとする。
- ・一つ正すと一つ忘れるというような不注意な間違いが多い。したくや片付け等の手順を考えて行うことが難しい。

## スマホ、タブレットの操作について

- ・ゲームや学習アプリ、デジジーを使う上での基本的操作はできる。
- ・文字入力は、文字を拾いながらの平仮名五十音表での入力である。

## 強み

- ・素直で、教えたことには真面目に取り組む。
- ・約束を守れる。

## ◆活動の具体的内容と事後の変化(☆)

### (1)「活動の見通しをもって、じっくり生活する心地よさを味わう」について

#### ①一日の流れをつかんで生活するための取り組み

特別支援学級の朝の会では、予定ホワイトボードを使って11名全員の1日の予定の確認をしている。また、各個人の動きが手元で確認できる予定表を作成し、いつでも見て確認ができるようにしてある。交流学习の授業時間の確認ができた。じっくり自分の予定を頭に入れて、一日の中に楽しみやめあてをもって、1日のスタートを切れるようにした。めあての振り返りは、帰りの会で行った。

朝の会に続けての生活調べでは、1項目ずつ表へのチェックをすることで、基本的な生活習慣、学習の準備の大切さを意識化することができた。予定も振り返りも確認する時間を十分に確保すること、その活動を見届けること、それらの時間を日課に組み込み、習慣化していくことが大切であった。



カメラ



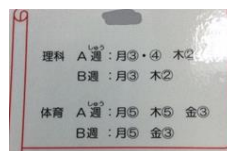
写真



PhotoMemes



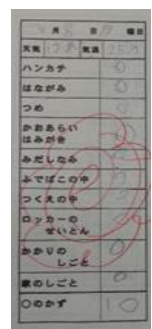
全体の予定表



個人の予定表



めあての確認と振り返り



生活習慣の確認

☆特別支援学級での一日、一週間の生活の流れがわかり、落ち着いた生活が送れている。

☆交流学級での授業の場所や時間の変更も聞いたらずれず、準備、移動ができています。「今度の木曜日の理科はテストです。」と話すなど、活動の見通しがもてている。

#### ②じっくり取り組む姿勢を身につけるための取り組み

本児に合う机の高さ、黒板からの位置など環境設定を整えた。姿勢に関しては、立腰の言葉とともによいモデルの提示をし、掲示物によって本児が目で見えて意識できるようにした。また、できている場面を映像で振り返るようにし、価値づけた。

雑になりがちであった一つ一つの作業には、十分な活動時間を確保して、途中で短い休憩を入れながら、最後まで注意を払って行えるよう担任が見届けた。映像による振り返り



も行った。

☆自分のがんばりを映像で振り返ることにより、自分のいい姿、行動のイメージがもてるようになった。行動への意欲付けにもなった。

☆一つ一つの作業を最後までやり切る達成感を感じ、最後まで意識を集中させて取り組もうとする態度が見られるようになった。

### ③一日一日の生活を振り返るための取り組み

9月までは、筆者と学習したものを写真で Photo Memes に残していたが、10月半ばからは一日を振り返って一言日記を書くようにした。書いた内容について筆者と伝え合ったり、担任と会話を弾ませたりすることができた。1ヶ月の振り返りにも活用した。



☆一言日記を書いたことで一日一日の生活の大切さと積み重ねを感じることができた。書いたものを介して、担任や校内の教員と会話ができた。

☆Photo Memes に日記を書くことを継続したことで、一つのことを続けられる自分に気づけた。

## (2)「本児に合った学習法を見つけ、意欲的に学習できるようにする」について

### ①学習支援ツールとしての iPad の使い方を身につけるための取り組み

週2回 国語及び算数の個別学習の時間の中で実施した。

5月に筆者と本人と担任と家庭で iPad を使う約束を確認した。

使えそうな機能の使い方を練習した。(読み上げ機能、デジタール図書の使い方、音声入力機能、常用漢字筆順辞典での文字検索の活用、スクリーンショット、カメラ機能の活用)

読み方や書き方のわからない漢字が出てきた時、常用漢字筆順辞典で調べたり、わからないことをグーグル検索で調べたりした。調べたものの画像を見て納得するが、長い説明文を読むことには躊躇しがちであった。読み上げ機能を使い、自分が理解して聞き取りやすいスピードにして聞いていた。また、気に入った画像はスクリーンショットで残した。

10月に平仮名入力とフリック入力を比較した。フリック入力の方が速い、やりやすいと本児自身が考え、フリック入力するようになった。

☆iPad の読み上げ機能やカメラ機能、調べたいことや文字の検索機能を使っていこうという気持ちももてた。





- ☆家庭に iPad mini を渡してからは、放課後等デイサービスでも、NHK for school の視聴をしたり、宿題の漢字調べにアプリを使ったりした。活用場所を広げた。
- ☆9月からは、毎日 iPad mini を持参して登校している。家庭、学校、放課後等デイサービスで自分に必要な物として使用するようになった。
- ☆平仮名 50 音表での入力より、フリック入力に慣れてきた。

## ②学習アプリを使って効果的に学習するための取り組み

iPad mini を 6 月から週2回 国語及び算数の個別学習の時間の中、夏休みからは家庭学習で、9月からは日常的に国語と算数の授業時間に使用した。

ねらい	使用アプリ	活動の具体的内容	☆ 事後の変化
特殊音節の読み書きを確認する	 かなトレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作化やフラフープとびとも合わせて特殊音節を学習した。</li> <li>・機器からの音声と復唱する自分の声をよく聞いて、集中して取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手だった「ゆ」「よ」の区別がはっきりした。</li> </ul>
九九を覚える	 9x9カード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できている 9 の段から取り組んだ。</li> <li>・段を選択して取り組めるので、負担なく取り組めた。</li> <li>・上り、下り、ゴチャマゼ 10 題、20 題、50 題、計測有り、無しと実態に合わせてやり方を選んで取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 の段及びかける 5 以上は、覚えるというより累加していることも多い。しかし、それにより繰り上がりの計算が暗算でスムーズにできるようになった。</li> <li>・9月 1 日には、2から9の段の書き込みを 5 分 53 秒で実施することができた。</li> </ul>
	 九九のトライ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターの進化が意欲付けになり、授業中の活動と活動の合間にも自主的に取り組めた。</li> <li>・夏休み中、アプリを併用することで九九の学習意欲を維持できた。</li> </ul>	
片仮名の読み書きができる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせて、言葉の中の文字を印象づけた。</li> <li>・覚えていない字を選んで指書きした。</li> <li>・筆順に気をつけた。</li> <li>・形の似ている文字に関しては、違いを言葉にして覚えるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名をすべて読めるようになった。</li> <li>・11 月には、筆順の違うものもあるが、ヌとヨ以外の片仮名の文字を書くことができた。その後、46文字すべて書けるようになった。</li> </ul>
1.2 年生の漢字を読めるようにする	 KanjiDrillHD 1.2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始筆、終筆、筆順に気をつけてゆっくり指書きするよう</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字は 1 年の漢字を使った単語読めるようになった。</li> <li>・2年生の漢字の読みも書きも「消してもう一回やります。」と繰り返して学習する態度が見られるようになった。</li> </ul>



 かん字よみ方 1.2年	・間違えても間違えたところからスタートして満点にして進んでいくので、言葉そのものや言葉の読みを覚えようとして進めていくことができた。	・読みの文字を一文字ずつ選ぶので、拗音の勉強にもなり、拗音の書き誤りが少なくなった。 ・正しく文字を見ること、よく見てタッチしようとするようになった。 ・語彙を広げることができた。
漢字の読み書きを支える	 新・筆順辞典	・読み方がわからない漢字を調べたり、画数が多い字を拡大して見たり、書き方がわからない漢字を調べたりした。

### ③理科の授業への参加しやすくするための取り組み

新しい単元に入る前、授業の予習に NHK for school の理科を視聴するようにした。メダカと発芽など複数の単元を並行して授業がすすめられる時は、復習として見ることも多かった。



視聴して印象に残った画像、大事だと思う画像をスクリーンショットで写真アプリに残した。スクリーンショットした写真や検索して出てきた画像で大事だと思うものを選んでロイロノートを使ってノートのまとめをした。

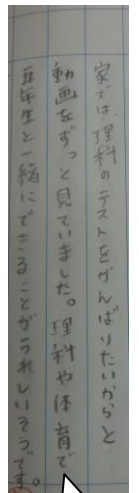
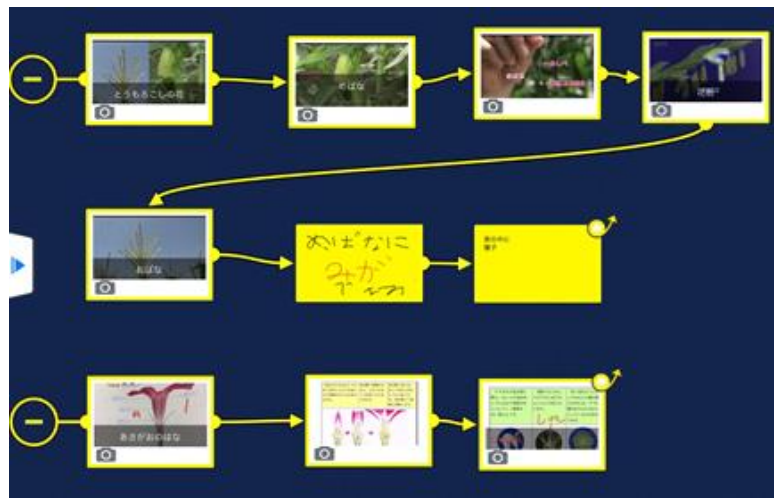
選んだ画像をロイロノートの画面に貼り付け、自分が頭に入れやすい順番に並べた。画像を見ながら、説明を音声で入れた。自分の声を聞き返ししながら、一つ一つの画面を作成した。タイトルを文字で入力したり、用語を書き込んだりした。自分が聞きやすい、理解しやすいつながりを考え、時間調整していた。

検索して出てきた画像の説明文で読みにくいものは読み上げ機能を使って読んだ。

テストの前、テスト勉強として使っていた。



ロイロノートの作成  
画像を見て言葉での説明を録音している。



9/7 の連絡帳  
の母の言葉

☆交流学級の理科の授業を楽しみにしており、そのため、家庭で自主的に NHK for school の理科を視聴してきた。また、家庭で、2歳下の弟にも本児が NHK for school の活用を紹介した。

☆「香川照之の昆虫すごいぜ」など興味をもったシリーズを視聴したり、体育で台上前転をやった日には、うまく回るコツを探そうと調べたいと思ったことを動画で調べようとしていたりした。自分から学ぼうとする姿が見られた。

☆ロイロノートを使ってのノート作りでは、写真について言葉で説明する、タイトルを文字入力する、写真に手書きで用語を書き込む、自分の説明の声を繰り返し聞く等の作業により、理科の用語やつかむべきポイントが整理され、本児の知識の獲得につながった。

☆ロイロノートへまとめることで、カメラ機能の扱いや言葉（音声）で整理していく活動を楽しめるようになった。

### (3)「自分にできることを見つけ、自己肯定感を高める」について

#### ①iMovieで動画を作成しての取り組み

コロナ明けの学級開きの時期に、特別支援学級での短距離走の授業の様子をiMovieで編集して見せた。一人一人を主人公にしてネーミングして編集した。支援学級の仲間がめあてに向かって努力できる集団であることの意識づけと運動の意欲づけを行った。

新しい仲間のよさと学級の一員としての居場所を感じる事ができた。



カメラ



写真



三保第二小 フィルム

#### ②自身の活動を動画で振り返る取り組み

帰りの会や授業の振り返りの場で、家庭できるようになったこと、集中して取り組む様子、学級の中でがんばっている姿、意欲がもっている様子を映像で見て確認した。学級の友達ともがんばりを認め合うことができた。

体育の授業では、動画の映像で動きを確認する活動を行った。

左手で抑えているね。最後まで鉛筆の先を目で見て動かし  
ているね。

丁寧に書くて、  
こういうことだね。



集中してゆっくり丁寧に書いている様子を本児と一緒に画像で確認した。

ほんとだ。  
たしかに

ぼくできている。



交流学級にペットボトルキャップの回収を呼びかけている本児

腕がよく上がっているね。

目線はどうかな？



体育の授業での活用

顔をあげれ  
なかった。

顔をあげると  
いいんだな。

次のめあてに  
しよう。



☆担任に促されず、学級の係活動や委員会の仕事に自分から取りかかろうとする姿が見られる。

☆自分の動きを画像で振り返り、改善点をつかみ、言語化することができた。修正点をつかんで練習に意欲的に取り組むことができた。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ◆主観的気づき

- ① 本校の支援学級は、落ち着いた環境で生活できるように、十分な視覚支援、時間の確保、伝え方の工夫、個へのかわり等がなされ手厚く児童を支援し、運営されている。そうではあっても、iPad の映像を使っでの振り返りや以前との比較は非常に有効であった。
- ② 書きの負担を軽減して(文字入力によって)一言日記を書いたことが、漢字や片仮名の使用を促した。また、書くことへの意欲をもたせ、日記を書くことということを継続させることができた。
- ③ 学習アプリを使って学習することによって、効果的に学習することができた。ちょっとした時間が利用でき、負荷なく繰り返し練習できた。

### ◆エビデンス(具体的数値など)

- ① iPad の画像を児童と一緒に確認しながら、振り返りを行ったことで、いい表れを焦点化して価値づけることができた。それにより、子ども自身に自分のいい姿のイメージをもたせることができた。いいイメージが画像として価値づけの言葉とともに記憶され、保持されやすく、行動修正にもつながった。児童のいい表れを切り取って見せることができるため、児童ができた感、達成感をもちやすく意欲を高めることができた。

また、児童にとってうれしい画像は、自主的に繰り返し視聴され、いいイメージやうれしい思いを倍加することができた。より意欲を高めることにもつながった。

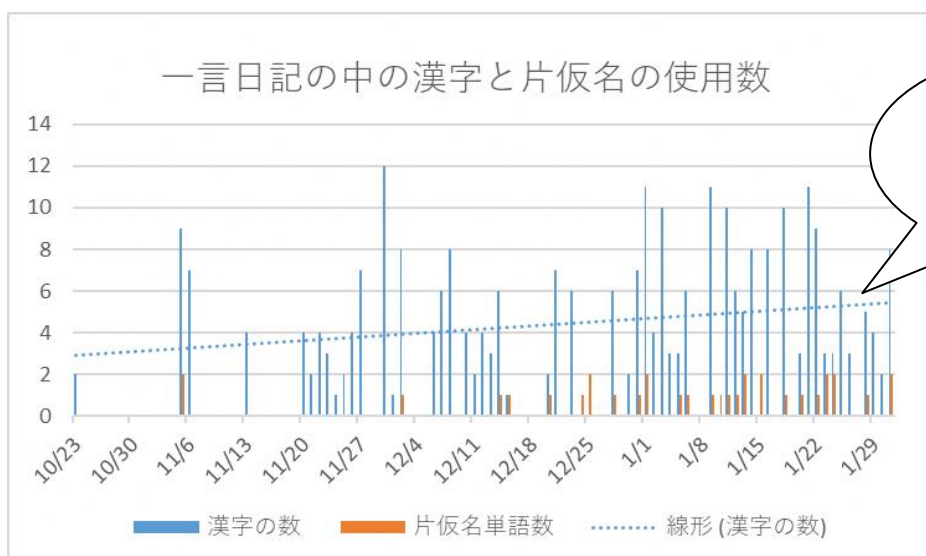
以上のことを学級担任、研究協力者と話し合った。

- ② Photo Memes に書いた日記では、漢字予測変換により、正しく漢字や片仮名を使い、文を書くことができていた。書いた文を読み上げ機能で読み上げて聞いて満足気な顔をしていた。それによって使用する漢字は全体的に増加が見られた。また、片仮名は、(2)の②の取り組みにより、11月より定着が見られてから日記への活用が見られるようになった。(図1、資料1)

後日、書いた文を読み返して、その時々を振り返ることもできた。そして、その時、難しい漢字も正しく読むことができていた。しかし、文を手書きすると平仮名ばかりになってしまう。(資料2)本児自身も読みにくく、読み返すことを避けてしまう。

本児は「iPad で書くのは、鉛筆で書く時と違って、丁寧にとか考えなくていいから楽。」と話している。本人の丁寧という言葉の中には、漢字や片仮名の文字を想起すること、想起して形を整えて書くこと等が含まれていると推察できる。時々絵文字も使い、楽しく書くことができていた。

図1



日によってまばらではあるが、全体として使用数が増えている。



一言日記の中で使った漢字

国語、算数、理科、体育、宿題、勉強、復習、教科書、九九、漢字、言葉、振り返り、挑戦、  
 食塩、お湯、溶ける、水、増やす、実験、振り子、重り、  
 読み仮名、箱、お鍋、具材、お魚、砂糖、お菓子、夜ごはん、牛乳、当たり、名探偵、  
 放課後支援、学校、組、家、公園、児童会、保健委員、仕事、確認、  
 試合、買い物、豆まき、朝霧自然教室、楽しみ、富士宮やさそば、一泊二日、  
 家族、弟、僕、友達、三保一、7班、外、今日、明日、夜、  
 分かる、遊ぶ、作る、食べる、見る、行く、終わる、着く、入る、借りる、勝つ、読む、教える、頑張る、  
 大変、楽しい、重い、一緒、嬉しい、早く、美味しい、多い、難しい

一言日記の中で使った片仮名

ウッドクラフト、キーホルダー、トイレトペーパー、テスト、パーティー、プリント、クリスマス、  
 グローアップ、クリスマスパーティー、ゲーム、メチャ、ポケモン、カード、アスレチック、タラ、  
 イチゴミルク、ゴチャマゼ、イチゴ、ビフォー、アフター、フィギア、コナン、マリオ、パズル、パ  
 ック、テスト、ドラえもん、レタス、チャーハン

片仮名で書く言葉は片仮名を  
使って書いている。

資料 1



資料 2

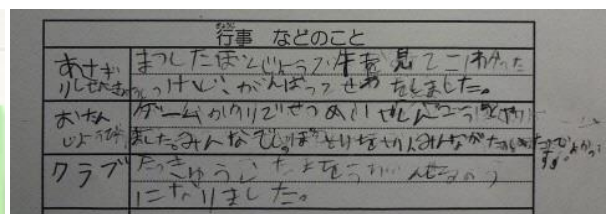


Photo Memes に書いた日記を読みながら、一年の振り返りをした振り返りカードより (1/26)

手書きでは読みにくい文章も、文字入力では漢字や片仮名を使って文章を作成できる。

③ 読みの流暢性を調べた STRAW-R の結果からわかるように、平仮名、片仮名の読みが速くなった。(図 2) 特に、平仮名、片仮名とも単語の読みが速くなっている。一文字一文字の文字を正確に音声化することが速くなり、すぐに単語に結びつけて、単語としてのまとまり読みがスムーズできるようになったため、読みの速度があがったと考えられる。

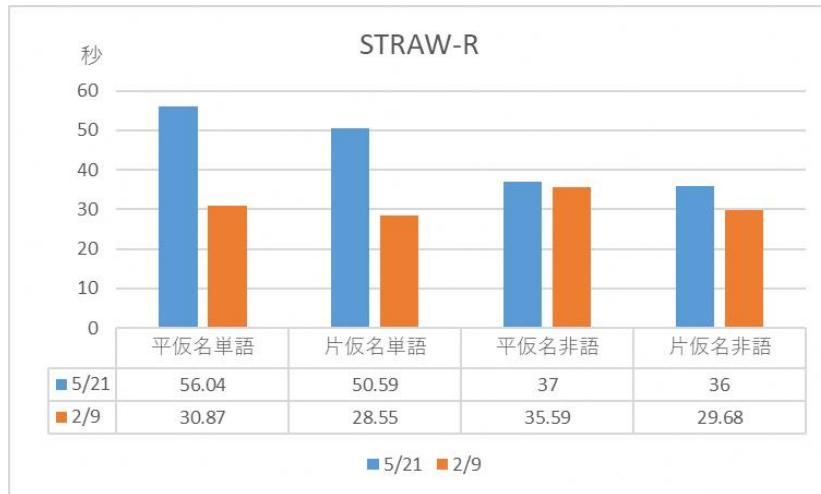
文字や九九の学習を諦めることなく最後まで取り組む姿が見られるようになった。その結果、片仮名は、46文字を全部書けるようになった。(資料 3)

九九もスムーズに答えを出せるようになった。年度初めは、2 の段から 9 の段の書き込みプリントを渡した時、2 と 9 の段、 $\times 1$ 、 $\times 9$  の問題だけをやって「もう無理です。」と話して終わりにしていた。しかし、夏休み明け(9 月 1 日)には、2 の段から順に取り組む、5 分 53 秒で全部を書き込むことができた。2 月には、4 分 40 秒で取り組めた。かける数とかけられる数を入れ変えたり、わかる九九に累加したりしながら、バラバラ九九に取り組めるようになった。現在は、九九表を見ないで筆算の問題に取り組んでいる。

保護者も「漢字や言葉を覚え、勉強することに意欲的になった。」と話している。アンケートの言葉からも、意欲的に学習に取り組めたことがわかる。(資料 4)



図 2



資料 3



年度初めは、書くことに取りかかる前から諦めていた。

46 文字全部書けるようになった。

資料 4

アンケートの母親の言葉

字を書くことが苦手で 宿題に時間がかかっていましたが iPad を  
 使用することで 宿題にかかる時間が早くなり 本人も楽しみながら  
 行うようになりました。  
 文字を変換することで 漢字を覚えたり 文字が読めない時 音声で  
 聞くことで 言葉を覚えるようになりました。  
 iPad についても 自分でいろいろ試して 使いやすいよう 調整して  
 使っています。

◆その他 (今後の課題)

今年度、本児の学びに iPad を導入できたことで、効率的に文字の読み書き、1.2 年生の算数の学び直しができた。学習への取り組みに半ば諦めがちであった本児が、学習全般に意欲的になれたことは大きな成果である。

書くことに関しては、書字が苦手な本児への合理的配慮として、日常的に鉛筆で書くこと以外の方法(補助機器を使用し、文字入力、音声入力すること)で行うようにしていきたい。

また、今年度の取り組みで、読んで理解するに代わる情報収集の方法を学ぶことができた。それを継続し、興味を広げていけるとよい。

自分の苦手を補う支援グッズとして、情報端末を上手に使い、本児の可能性を広げ、生活を豊かにしていくことを願う。